

# 北海道阿寒高等学校

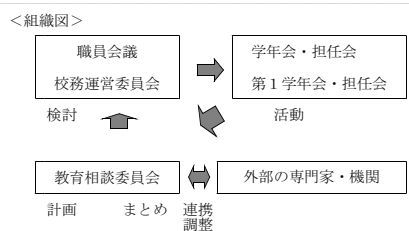
課程 全日制  
 学科 普通科  
 生徒数 138名

## 1 取組の特徴

第1学年生徒を中心に、宿泊研修での集団カウンセリング、Q-Uテストの実施、スクールカウンセラーによる講演会、振り返りシートを活用した継続的な指導により生徒のコミュニケーションスキルの育成を図り中途退学者の減少を目指す。

## 2 取組のねらい

1学年生徒の人間関係能力・表現力を育てる集団体験学習などを通じ、生徒のコミュニケーションスキルの育成と学級・学年集団づくりを図り、中途退学者の減少を目指す。  
 また、教職員による実践的な研修を取り入れ、組織的に生徒の成長を支援する体制を強化する。



## 3 取組の経過

- |    |  |     |                                   |
|----|--|-----|-----------------------------------|
| 4月 | ・生徒実態把握<br>(教育相談委員会による調査)                    | 10月 | ・「人間関係トレーニング」の実施                  |
| 6月 | ・宿泊研修<br>「人間関係作りトレーニング」の実施<br>第1回「Q-Uテスト」の実施 | 11月 | ・第2回「Q-Uテスト」の実施<br>・「Q-U」校内研修会の実施 |
| 8月 | ・教育相談週間の実施                                   | 12月 | ・教育相談週間の実施                        |

## 4 取組の内容

### (1) 宿泊研修「人間関係づくりトレーニング」の実施

- 対象 第1学年生徒
- ねらい 「リーダーシップを発揮し、自ら運営できる生徒へ」  
・コミュニケーションスキルを高める(個人のスキルアップの支援)
- 内容 自分思いを伝える関係の構築(アサーティブな関係の構築)  
・日常の仲間(グループ)とチームの違いを学ぶ。  
・生徒が自分自身や仲間との人間関係について振り返る機会とすることができた。
- 成果 グループの作り方、活動中の相手を思いやる心、伝えなければいけないことなど、多くのスキルを学ぶことができた。
- 感想 ・色々な人とグループを作るのがこんなに楽しいとは思わなかった。  
・信頼が大切ということが分かった。これからも人との信頼を大事にしようと思った。  
・それぞれの人にいろいろな役割があることに気付いた。
- 課題 ・「アサーティブ」等の専門用語を使った説明が多かったため、平易な言葉に言い換えるなどの対応が必要であった。



ビンゴゲームの様子

### (2) 第1回「学級適応検査等の状況」(実施検査 Q-U)

- 対象 第1学年生徒
  - 結果 ・学級満足群に位置している生徒の割合が一番多いが、ルール・リレーションにもまだまだできておらず、プロットにばらつきが見られる。
  - 分析 ・友人との関係は悪くないが、学級との関係、所属の意識はやや劣る。
- (3) 仲間づくり支援・コミュニケーションスキル育成研修の実施(テーマ:アサーション)
- 対象 第1学年生徒
  - ねらい コミュニケーションスキルの育成と集団づくり
  - 内容 ・コミュニケーションについて(講義)  
・グループ演習・シェアリング  
(講師:北海道医療大学准教授 富家直明氏)
  - 成果 ・宿泊研修で学んだアサーティブな活動を振り返ることができた。  
・「自分も相手も大切にしたいコミュニケーション活動」を学ぶことができた。  
・「I am OK, You are OKは大切なことだと思った。今後に活かしていきたい。」
  - 感想 ・コミュニケーションが人間にとって大切なこととわかった。積極的に話して、これから先につながるように頑張りたい。
  - 課題 ・限られた時間の中での講演と演習のため、ゆとりがなかった。  
・今後、日常での学校生活を通して継続的に実施していくことが課題である。



アサーションの演習

### (4) 第2回「学級適応検査等の状況」(実施検査 Q-U)

- 対象 第1学年生徒
- 結果 ・学級満足群に位置している生徒の割合が前回よりも増えたが、不満足群、侵害行為認知群に動いた生徒もいる。
- 分析 ・学習意欲、教師との関係が向上している。  
・生徒同士の関係は向上したが、関係を上手に築けない生徒がいる。

### (5) 「Q-U」校内研修会の実施

- 対象 教職員
- 内容 ・アンケート結果から見える集団としての状態  
・個別のアセスメント  
(講師:釧路市立美原小学校教頭 高島昌之氏)
- 成果 ・Q-Uを活用した教育相談の手法について学ぶことができた。  
・学年や学校全体で生徒の情報を共有し、組織的に対応することの大切さを学んだ。  
・実践的な指導により、面談等で活用が図られた。
- 課題 ・担任だけではなく、学年や分掌などと連携した組織づくりが必要である。  
・定期的な面談と日常での対応など、日々の実践が今後の有効手段である。



## 5 次年度に向けて

- 成果
  - 中途退学者数及び不登校生徒数は60%減少している。
  - 学級適応検査等の結果から学習意欲と、生徒と教師との関係の向上が見られる。
  - 大学進学者が増加している。また、就職決定率は、昨年度と比較して約30%上昇している。
  - 生徒の変容した姿・・・学校全体が落ち着いた雰囲気になってきている。
- 課題
  - 教員の集団カウンセリングの指導力の一層の向上。
  - Q-Uテストを有効活用したカウンセリングの実施。
  - 研修の成果や課題を整理し、次年度への引き継ぎを図る。
- 次年度に向けて
  - 本校の目指す生徒像の実現。1「当たり前のできる生徒」2「社会に通用する力をもった生徒」3「自立精神に富み、積極的に行動できる生徒」4「地域を愛し、地域に貢献できる生徒」。目指す生徒像実現に向け、生徒が主体的に充実した高校生活を送れるような環境づくりを行う。
  - 全校生徒が、教科指導、特別活動と関連付けて継続して学習できるように進める。
  - Q-Uテストの効果的な活用について、校内研修を継続する。